



# スマイル天神 No.35



令和3年12月20日  
天神小学校  
校長 木下 和弥

思いやりのある子・進んで学ぶ子・明るくたくましい子

## 愛する子どもに親が残す財産とは…

私の父は、昭和2年生まれの典型的な頑固おやじ、厳しい中にも情に厚い。決して涙を見せることはありませんでしたが、一度だけ涙を見ました。

私が学生生活にピリオドを打ち、教員になるため佐世保に戻ってくるときのこと。住んでいたアパートから引っ越しを

する日。必要ないと言ったにもかかわらず両親とも引っ越しの手伝いに来てくれました。私が数日前にもらった修了証書を無造作に見せて「お父さん、お母さん、大学に行かせてくれてありがとうございました。4月からは仕事をがんばります。」と言ったとき、両親二人で涙を流して喜んでくれました。初めて涙を流した父を見た日でした。



父が私に伝えた言葉で心に残っている言葉があります。それは結婚して親元から離れる日のこと。「和弥、お父さん・お母さんは、お前たち（3人兄弟なので）にお金や家といった財産は残さない。お前たち子どもの心の中にある、思いや考え、習慣や生き方がお父さん・お母さんからお前たち子どもに残す財産だ。」この言葉を言われた時は、意味がよくわかりませんでした。よくテレビなどで、親の莫大な遺産をもらって、裕福な生活を送っている人などが話題になっても、自分の中では「親のお金で自分が裕福な生活を送るなんて変だ。」とっていましたし、私は親から、しっかりと食べさせてもらったり、兄たちからも遊んでもらったり、いろいろなところに連れて行ってもらったり、大学にも行かせてもらったりもしましたし、それだけで十分だ。」とっていました。

自分は損な性格かなと思うこともありました。嘘をつくこと、何か落ち着かず、なかなか嘘がつけられないこと。きまりを破ると、なんとなく心がもやもやとして、きまりを守らないと落ち着かないこと。お酒を飲んだときも、たった3・4mほどの車が通らない赤信号の横断歩道であっても渡れないこと。明らかに両親からの習慣・財産です。そして、これらのおかげで、金では買えない信頼できる友達・知人がたくさんできたと思っています。

小学生のころ、雨がどんなに降っても、車で迎えに来てもらえることはなかったですが、帰宅したら、必ず玄関先に濡れた身体をふくタオルがありました。大雨の日、朝から車で送ってもらうことはなかったですが、学校に到着してから着替える洋服や靴下を朝から持って行けるよう母が準備をしてくれていました。

天神小学校の正門への道路は、7:30 から 8:30 の間は車両通行止めです。親として我が子が苦勞をしないようにという愛情で、子どもを送りたいという思いも十分にわかります。子どもは楽をしたいですから。もし子どもが風邪をひいたら親も仕事を休み、子どもも学校を休まないといけません。親も困ることばかりです。しかし、子どもの目先の損得や親の都合ではなく、子どものこれからの成長を第一に考えた際にいかがでしょうか。私は父の言葉が心に刺さります。「親が子どもに残せる最大の財産は、考え方や生き方や習慣だ」と。

天神小一徳運動 「気持ちのいいあいさつ」 ～あじさいあいさつを～

～あいての目を見て ①ぶんから ②わやかな声で ③いつでも・どこでも・誰にでも